

めぐろプレーパークキャラバン隊!!

目黒区

プロジェクト実施者 めぐろあそびばねっと

実施日時

令和 5 年 8月16日(水) 10:00~17:00

令和 5 年 8月17日(木) 14:00~20:00

令和 5 年 8月23日(水) 14:00~17:00

令和 5 年 8月25日(金) 10:00~17:00

令和 5 年 9月1日(金) 15:00~20:00

実施場所

東山公園、中央緑地公園、すずめのお宿緑地公園

プロジェクト概要

こどもを中心とし、保護者、地域住民、学生ボランティアでプレーパークキャラバン隊を結成！目黒区内の公園の特色を生かして、出張プレーパークを開催します。こどもたちが廃材、水、火、土等を使って、遊びを通して自分を表現できる環境をつくり、ウォータースライダーや竹ジャングルジムなどダイナミックな遊びにも挑戦できます。

イベント詳細

目黒区内の各公園の特色を活かして出張プレーパークを開催し、3つの公園が1日プレーパークに変身しちゃいます。こどもが「わくわく」「のーんびり」「びちゃびちゃ」「ドロドロ」、いろんなやりたい事にチャレンジしたり、自由に過ごせる時間を創っていきます。その場にきたこどもたちが木、水、火、土等を利用し、遊びを通して自分を表現していけるような環境を用意します。ウォータースライダーや竹ジャングルジムなど、ダイナミックな遊び環境も作ります。自由な時間と空間の中で輝くこどもの笑顔。こどもたちの真の願いを再発見するかも。

プロジェクトへの想い

こども一人ひとりが持つ素敵な光が、生き生きと輝くことを願い「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、こどもの「やりたい！」を大切に、できる限り禁止行為や制限のない自由なあそびばを企画しました。自然を五感で感じ、自然とあそぶこどもたちのキラキラした瞳や真剣な眼差し、チャレンジに成功した達成感の表情や失敗したときの悔しい表情、様々なあそびを考えつく豊かな発想力、そんなこどもたちの素敵な輝きに出逢うのが楽しみです。「遊ぶ楽しさ」や「アソビゴコロ」を思い出し、心が軽やかに楽しく元気になる居場所。日常にこんなくプレーパーク)があって欲しいと願い、行動する人が地域に増え、繋がりがあえたら嬉しいです。



めぐろプレーパークキャラバン隊!!

子供の感想

- ・小学1年生：くつやふくがびしょびしょどろどろになったけどおともだちといっしょにいたりしてたのしかった。
- ・小学1年生：またぜったいにいきたいとおもいました。たのしかったです。
- ・小学1年生：たけにのぼったのがたのしい。
- ・小学2年生：たのしかった。大人とかがやさしかった。
- ・小学3年生：ウォーターライダーがたのしかったです。
- ・小学5年生：みんながいっしょにあそべるあそびがあつてよかったです。
- ・小学5年生：年代かんけいなくあそべてとてもよいと思いました。
- ・小学5年生：ベーゴマができたときのたっせいかんがすごかった。

保護者の感想

- ・はじめは消極的な様子でしたが、どんどん自分から楽しみにいっている様子でビックリしました。貴重な機会をありがとうございました！
- ・ぜひ常設プレーパークを目黒区にも設置してほしいです。子どもがのびのびと遊べる場を作して下さい。
- ・最近の4歳の子供の口癖が「ママはダメダメばっか！」だったので、思いっきり好きなこととして遊べ、をテーマにカラダを思い切り使って遊ばせることができて親としての気持ちの整理にもなりました。
- ・大人の目がこれだけ充実しているイベントは少ないので、大変有り難いと思いました。普段できないハンマーや釘の工作もできて楽しめていた様子でした。どうも有難うございました！！
- ・公園の固定遊具ではなく自然なものを使う遊びは子どものワクワクが溢れ出ていて考えて遊ぶ想像力も育ちとてもいいものとおもいます。昔からある遊び場大人も楽しく自然で遊ぶ大切さを感じます。
- ・酷暑が続く中、涼しげな公園や児童館にいても誰もいない状態、幼稚園のお友達誘っても兄弟の予定などで合わず、孤独な夏休みが続いていました。子どもたちが和気あいあいとしている中にと、二人共気持ち安らぎます。本当にありがとうございました。
- ・とても楽しいです。もっと高頻度で開催してほしいです。コロナを過ごしたせいか、子供は他の人と話すことへの恐怖心がなかなか抜けません。沢山の人が喋りかけてくれる環境、とても貴重です。

主催者の感想

普段から行っている区内3か所の公園で、普段以上の遊びの環境を設定し、普段以上のスタッフ、ボランティアの協力を得て、5回のプレーパークキャラバン隊を開催する事が出来ました。心配されていた熱中症や大きなけがもなく、いつもは危険だからと言って止められてしまうような高いところでも、「ドキドキして楽しい。」と言い、色々な遊び方を自分で工夫して楽しみ、周りの子の様子を見ながら挑戦する姿が見られました。大人からの促しではなく、皆がやりたいことを思い切りと体験できたことを嬉しく思います。小さなけがや、やけどをする子もいましたが、保護者より「良い経験になりました。」と言われたことや、子どもたちからも「危ないとかダメとか言われることが今日は出来て、楽しかった。」「ここが気に入った。ここに住みたい。」という声を聴く事が出来ました。今回、地域の多くの子どもや大人が参加し楽しむことで、子どもが主体的にかかわる自由な遊び場の必要性を感じていただけたことと思います。ひと夏のイベントとして終わらせるのではなく、このような遊び場が日常的に開催できるよう、地域の方々へも多く理解と支援を呼び掛け、自由な遊びの大切さと、大人も遊び心を持つことを伝え続けていきたいと思っています。

